

幼保連携型「石巻ひがしこども園」について

こども園の種類

幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地域裁量型それぞれ認定こども園ですが、認定要件が厳しいのが幼保連携型です。

幼保連携型「石巻ひがしこども園」の紹介

- (1) 幼稚園と保育園の機能を併せ持つ未就学児を保育料無償にて終日お預かりします。幼稚園のお子さんは「満3・1号・新2号」の認定が必要になります。保育園のお子さんは「2号・3号」の認定が必要になります。※1号認定のみでもご利用できますが午後の預かり保育料が別途かかります。お電話にてお問い合わせください。
- (2) 職員は、幼稚園教諭と保育士両方の資格を持つ「保育教諭」であり、専門性の高い教育・保育を提供し保護者とお子さん1人1人の成長を考えながら接していきます。
- (3) 園内で季節を感じながら、園バスや散歩で園外に出かけ自然を体験し、年中行事や活動を通して人としての土台である情操教育を行います。
- (4) 食事に気を配り添加物を使わず、調味料にも気を使い手作りの給食（食事）とおやつ（軽食）を無農薬の胚芽米で提供しています。
- (5) 園内在籍の保護者や地域の子育て家庭の方々の育児相談、親子で遊ぶ園庭開放（1日参加、半日参加）をしています。

園の概要

開園時間 7時～19時

利用定員 60名（幼稚園認定15名 / 保育園認定45名）

認定の年齢クラスと預かり時間

幼稚園認定

満3 2歳クラス 8時30分～12時30分

1号 3歳～5歳クラス 8時30分～12時30分

新2号 3歳～5歳クラス 12時30分～16時30分

※「石巻ひがしこども園」では、満3・1号の認定に新2号認定の両方が必要になります。新2号の認定は午後の預かり無償化の制度です。満3・1号の認定のみでも利用できますが午後は有償になります。詳しくはお問い合わせください。

保育園認定

2号 3歳～5歳クラス 8時30分～16時30分（短時間保育）

3号 0歳～2歳クラス 8時30分～16時30分（短時間保育）

※ただし標準認定の場合は2号・3号共に7時～18時
延長保育は、認定時間以外での朝と夕方お預かりします。

※3号は保育料あり、市民税所得割額により市（行政）が保育料を決定します。

石巻ひがしこども園Webサイト



<https://ishinomaki-kodomoen.com>

石巻ひがしこども園所在

〒986-2123 宮城県石巻市伊勢町198-2



▼Google mapで確認



石巻ひがしこども園入園に関するお問い合わせ先

電話番号：0225-90-4664

幼保連携型認定こども園 石巻ひがしこども園 入園のご案内



子どもの笑顔を守るために



社会福祉法人 輝宝福祉会

園からひとこと

デジタル機器が身の回りに溢れている時代になり、子どもの子育て、生活環境が大きく変化しています。その一方で、子どもの乳幼児期の成長は今も昔も変わりません。

私たちのこども園では、大人が時間と空間と環境を子どもの年齢に合わせ用意し、仲間とともに育ちあえる教育、保育を提供しています。どんな子ども笑顔で過ごせることを大切に、遊びたい食べたい寝たいという意欲を満たせるように環境を創っています。

又、子育ての中での悩み等を解決していきながら一緒に楽しい子育てをし、子どもが心身ともに成長をしていくのを共有していけたらと思います。

見学はいつでも受け付けますのでお気軽にご連絡ください。



自然の中で遊ぶ

石巻の豊かな自然や四季の変化を感じながら生活し、園外保育では草花や生き物を発見したり、水や砂、土など変化する素材に触れ、全身を使って遊ぶことが乳幼児期では一番大切で、感性や認識を育てます。



仲間と学ぶ

乳幼児期の学ぶことは共感することです。先人や周囲の大人、仲間と共感するからこそ、その仕草行いを真似る（模倣する）。大人や仲間との共感が真似る（模倣）につながり、仲間との関わりから本当の思いやりや相手の気持ち、思いを感じられるようになり、賢くたくましく育ちます。



仲間と遊ぶ

安心して自分を出せる、受け入れられる環境の中で過ごしなが、指差しをして「ジブンデ」「ミテミテ」と自分の気持ちを言葉で表すようになったり、仲間とぶつかる様な経験もしながら、仲間と共に遊びや生活を創っています。



眠って育つ

いっぱい遊んで食べたら眠くなります。「寝る子は育つ」というように質の良い睡眠は大切です。体を休めて疲れをとるだけではなく、寝ている間に心身ともに成長します。



食べて育つ

たくさん遊ぶとお腹が空きます。みんなで一緒に食べる食事はとても嬉しいものです。苦手な野菜も少しずつ食べられるようになります。子どもは色や味、匂い、固さや時には音も聞きながら食事を楽しみます。「食べることは生きること」と言われるように、安心してお腹いっぱい食べられるように工夫しています。

